

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）

乳がん検診における国際的調査
（乳がん検診の適切な情報提供に関する研究）

研究分担者 高橋 宏和 国立がん研究センター 社会と健康研究センター 室長

研究要旨

乳がん検診におけるマンモグラフィによる乳房の構成については、米国の多くの州で通知が法制化されている一方、欧州など他の地域では通知されていない。米国では、英語以外の言語で通知の説明を行うことや、貧困および低学歴などの社会的弱者に対して理解しうる説明を行うことが必要視されている一方、欧州では過剰診断など、乳がん検診の不利益について関心が高く、通知には慎重の姿勢である。わが国のがん検診は、対策型検診として住民に提供されているが、人間ドックなどによる任意型検診も行われているため、状況としては米国と欧州の混合型として考えることができる。そのため、米国や欧州の一事例をもって国全体の対策に反映するのは日本に実情に合わないため、多角的な視点による慎重な議論が必要である。対策型検診において乳房構成を一律に通知することは現時点では時期尚早だが、引き続き海外の状況も参考にしたよりよい通知の方法について、対応を検討していく必要がある。

A．研究目的

乳がん検診の科学的根拠やシステムは、欧米各国の状況を参考にした上で、厚生労働省の検討会などでわが国の状況について議論し、運用されている。マンモグラフィによる乳房の構成については、米国で通知が法制化されている一方、欧州では通知されておらず、これらの国の現状を把握することにより、情報提供の方向性を検討することを目的とする。

B．研究方法

乳房構成の通知に関する論文検索や情報収集をWebで行い、必要に応じて国内外の学会に参加し、実態把握および専門家の意見を収集した。各国の社会保障制度については、医療経済研究機構などの資料より収集した。

（倫理面への配慮）

「ヘルシンキ宣言」「人を対象とする医学研究に関する倫理指針」を遵守して人権擁護に配慮する。なお、本研究は既存資料を用いた観察研究のため、対象となる個人に直接的な介入はなく、個人の人権は擁護されると考える。

C．研究結果

米国以外で、マンモグラフィによる乳房構成の通知を義務付けている国や地域は調査した限りなかった。一方、米国公衆衛生学会や米国の論文報

告では、英語以外の言語で通知の説明を行うことや、貧困や低学歴などの社会的弱者に対して説明を行うことの必要性、および家庭への周知などが訴えられていた。

欧州では乳房構成の通知に関する報告は見られなかった。一方、マンモグラフィによる過剰診断など、乳がん検診の不利益に関する報告が多数見られた。欧州の乳がん検診専門家へのヒアリングでは、高濃度乳房を問題視していない意見がみられた。

D．考察

米国では受診者の知る権利が尊重され、乳房構成の通知が法制化されたが、わが国とは社会保障制度が違い、実際の検診の運用は任意型検診に近く、加入保険によってさまざまである。検診現場の混乱を避けるためにも、乳房構成の通知を行う際には、その後に推奨される行動を明確にするとともに、受診者のリテラシーを向上し不安を軽減することが必要とされている。

一方、対策型検診が整備されている欧州の国においては、がん検診による不利益を低減させるために、検診頻度や対象者を少なくする傾向にあるため、乳房構成の通知については否定的な意見が多くみられる。

わが国のがん検診は、対策型検診として住民に提供されているが、人間ドックなどによる任意型検診も行われているため、状況としては米国と欧

州の混合型として考えることができる。そのため、米国や欧州の一事例をもって国全体の対策に反映するのは日本に実情に合わないため、多角的な視点による慎重な議論が必要である。

E. 結論

本研究班の提言のように、対策型検診において乳房構成を一律に通知することは現時点では時期尚早だが、引き続き海外の状況も参考にしたよりよい通知の方法について、対応を検討していく必要がある。

F. 健康危険情報

特になし。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Fujiwara M, Inagaki M, Shimazu T, Kodama M, So R, Matsushita T, Yoshimura Y, Horii S, Fujimori M, Takahashi H, Nakaya N, Kakeda K, Miyaji T, Hinotsu S, Harada K, Okada H, Uchitomi Y, Yamada N. A randomised controlled trial of a case management approach to encourage participation in colorectal cancer screening for people with schizophrenia in psychiatric outpatient clinics: study protocol for the J-SUPPORT 1901 (ACCESS) study. *BMJ Open*. 2019 Nov 2;9(11):e032955. doi: 10.1136/bmjopen-2019-032955.

2. 雑賀公美子、齋藤英子、河野可奈子、青木大輔、森定徹、高橋宏和、中山富雄、齋藤 博 市区町村事業として実施されている子宮頸がん検診にヒトパピローマウイルス(HPV)検査を導入した自治体におけるがん検診体制の実情 日本がん検診・診断学会誌 Vol.27 No.2 Page 126-133 (2019.12)

3. 町井涼子、高橋宏和、中山富雄 日本の対策型検診における直近 5 年度分の偶発症頻度について 厚生指標 vol. 66 No. 7 Page 13-19 (2019.7)

2. 学会発表

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

1. Takahashi H, Matsumoto A, Nakayama T. Cancer screening may cause overdiagnosis in Japan. Preventing Overdiagnosis 2019 (20191205) Sydney Australia

2. Kono K, Matsuda K, Machii R, Saika K, Takahashi H, Nakayama T. The status of compliance with guideline of cancer screening in Japan. 12th European Public Health Conference (20191120) Marseille France

3. Takahashi H, Matsumoto A, Matsuda K, Machii R, Saika K, Nakayama T. Overdiagnosis by conducting cancer screening other than guidelines in Japan. Guidelines International Network (20191031) Adelaide Australia

4. Takahashi H. Lung cancer screening in Japan. APEC Regional Workshop on Lung Cancer Prevention and Control (20191023) Beijing China

5. 高橋宏和 乳癌検診における国外の状況について 第 29 回乳癌検診学会学術総会 ワークショップ (20191109) 福井

6. 松本綾希子、高橋宏和、中山富雄 過剰診断について 第 29 回乳癌検診学会学術総会 ワークショップ (20191108) 福井

7. 鉢嶺元誉、町井涼子、高橋宏和、宮里治、金城福則、齋藤博 大腸がん検診精検受診率向上を目的とした、県主導による精度管理体制の構築について 第 78 回日本公衆衛生学会総会 ポスター (20191025) 高知

8. 高橋宏和、雑賀公美子、松田和子、町井涼子、齋藤博、中山富雄 都道府県が市区町村に指導および推奨するがん検診内容の実態 第 78 回日本公衆衛生学会総会 口演 (20191024) 高知

9. 松本綾希子、高橋宏和、中山富雄 乳癌検診において単回の要精検率が累積偽陽性率に及ぼす影響 第 78 回日本公衆衛生学会総会 口演 (20191024) 高知

10. 高橋宏和、中山富雄 OECD 諸国と比較したわが国の健診・検診の課題と対策 第 78 回日本公衆衛生学会総会 シンポジウム座長 (20191025) 高知

11. 大槻曜生、齋藤順子、早川雅代、片野田耕太、松田智大、高橋宏和、高橋都、吉見逸郎、島津太一 日本人におけるがんに関する健康情報へのアクセス、IT 利用、健康行動についての調査 第 78 回日本公衆衛生学会総会 ポスター (20191024) 高知

12. 齋藤英子、雑賀公美子、河野可奈子、森定徹、高橋宏和、中山富雄、齋藤博、青木大輔 地域住民に対する子宮頸がん検診での集団検診と個別検診の精度管理状況の比較 - 直近 2 年間の精検受診について - 第 28 回日本婦人科がん検診学会学術講演会 口演 (20190927) 奈良

13. 高橋宏和、中山富雄 がん検診における普及と実装 第 42 回日本がん疫学・分子疫学研究会総会 シンポジウム (20190712) 東京

14. 笠原善郎、鈴木昭彦、植松孝悦、角田博子、高橋宏和 高濃度乳房問題に関する現状と課題 第 27 回日本乳癌学会学術総会 シンポジウム (20190711) 新宿

15. 雑賀公美子、松田一夫、高橋宏和、町井涼子、齋藤 博 がん検診のプロセス指標の基準値の設定手法について 第 58 回日本消化器がん検診学会総

会 付置研究会 (20190607) 岡山

16. 小川俊夫、喜多村祐里、高橋宏和、飯地智紀、山口真寛、武藤正樹、今村知明、祖父江友孝 レセプトを用いた職域がん検診の精度 管理指標の算出手法の検討 第 92 回日本産業衛生学会総会 (20190520) 名古屋

H . 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)

1. 特許取得
特になし。

2. 実用新案登録
特になし。

3. その他
特になし。